



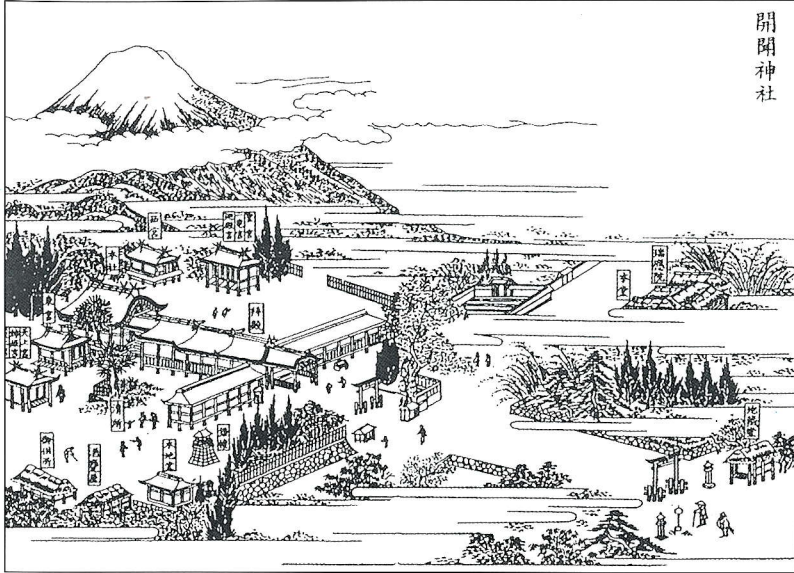
薩摩
一の宮 杖聞神社由緒記



附近の名勝

- 開聞岳** 薩摩半島の南端に聳立つ標高924mの珍しい二重式火山で、秀麗な山姿よりさつま富士と愛称されている。登山は役場横を登山口とし、4.8km登山所用時間2時間、下山1時間30分、東麓に亜熱帯植物園、ゴルフ場等の施設あり。
- 池田湖** 神社より北へ約2km、火山性陥没湖にして周囲約19km、九州最大の湖にして風景絶佳なり。
- 長崎鼻** 薩摩半島の南端、西に開聞岳を仰ぎ、東支那海、太平洋の波打ち寄せる処、世界の亜熱帯植物、日本最大級の花のテーマパークがある。
- 指宿温泉** 白砂青松連なり、前方に大隅の連山を望み、波静かな錦江湾に夢の如く浮かぶ知林ヶ島を眺望しつつ日本唯一の天然砂むし温泉を満喫出来る佳境である。
- 唐船峡公園** 当社末社川上神社の鎮座地にして、上水道の水源地である。神殿の底津岩根から湧出する冷水(年間を通じ13℃)、湧水量が豊富であるところから、この水を利用して町営の回転式そうめん流しの設備や鱒の養殖の施設等が完備されている。(回転式そうめん流し発祥の地)

開聞神社



現 枚聞神社「三国名勝図会」より

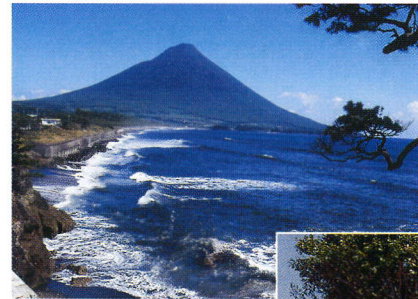


神舞

開聞神社祭巡遊園



神幸祭「三国名勝図会」より



開聞岳



玉の井

ひらきき 枚聞神社由緒記

◆ 鎮 座 地

千八九一〇六〇三
鹿児島県揖保郡開聞町十町一三六六 電話・FAX〇九九三(三三)二〇〇七

◆ 交通状態

- 1、J.R西鹿児島駅より指宿、山川經由開聞駅迄約時間三十分
- 2、枕崎方面よりJ.R利用の場合、約四十分

◆ 祭 神

枚聞神一座

神社由緒記に大日靈貴命(天照大御神)

を正祀とし他に皇祖神八柱神を併せ祀るとあり。

天之忍穗耳命 あめのしのほのみみこと 天之穗日命 あめのほひのみこと
天津彦根命 あまのひこねのみこと 活津彦根命 いづくひこねのみこと
熊野權日命 くまのくさひのみこと 多紀理毘売命 たぎりひめのみこと
狭依毘売命 さよりひめのみこと 多岐都比売命 たぎつひめのみこと



社殿

◆ 神社の沿革

御鎮座年代を詳かにせずとも、社伝には遠く神代の創祀なりと伝う。既に貞観二年三月、薩摩国従五位下開聞神加従四位下と三代実録に載せられて居るのを和むる為勅命により封戸二千を奉られたことを記載して居る。延喜式には薩摩国類娃郡枚聞神社と枚聞の文字を用いられて居る。

古来薩摩国の一宮として代々朝廷の尊崇厚く度々奉幣あり、殊に島津氏入国の後はその崇敬絶大にし、正治二年社殿再興以來、歴代藩主の修理、改造、再建等十余度に及び、元龜二年類娃領王家の内乱に依り千九百余町の神領を失つたのを、天正二十年九月には島津家より改めて田畠合計二十四町歩を寄進され、旧藩時代は別当寺瑞応院と共に祭祀を営んで来たもので、明治御治定の折今四年五月国幣小社に列格仰出され、現在薩摩の国の一宮として、又神社本庁所属別表社として地方の崇敬を集めている。

◆ 一般の信仰

南薩地方一帯の総氏神として又地方開拓の祖神として厚い崇敬が寄せられて居るが、特に交通安全、航海安全、漁業守護の神として附近航行の舟人等から厚く信仰されて居る。往年島津家に入貢して居た琉球人等は特に航海中開聞岳の雄姿を遙かに拝するや神酒を奉つて無事を祈つたもの由、現に神社には琉球王の名に依つて航海安全の神徳を奉謝して献納された額面等が数面保存されて居る。その他旧二十三日には他国に出稼ぎに出かけている肉親の人達の無事安泰を祈つてお参りする風習が今でもなほ氏子崇敬者の間に盛に続けられて居る。

◆ 社殿及び建築様式

朱塗りの第二鳥居(両部鳥居)を入れれば、正面に唐破風の、向拝のついた勅使殿がある。これは鹿児島地方独特の建物で、勅使門の変形して殿となりしものか、朱漆塗極彩色の美しい建物で、左右に廻廊に類する長片が連なる。勅使殿の奥は拝殿、幣殿、本殿と連つて権現造の様になつて居る。本殿は千木、勝男木を有し、入母屋造妻入、総朱漆塗極彩色で、特に向拝柱の雲龍の彫刻柱は、其の製作の優秀を称せられて居る。是等の建物は慶長十五年九月、島津兵庫入道維新公によつて再興せられ、天明七年島津重豪公によつて改修せられたものである。

雲龍の彫刻柱



◆ 神社境内及び附近環境

神社は薩摩の名山開聞岳の北麓に北面して鎮座あり、境内地は約七千坪あるが、その中には千数百年を経た樟の老樹が多数ありその枯枝が天高く衝立つて居る状は、此のお社の由緒深い古社であることを物語つて居る。前面には馬場参道があり、これより社殿に向かへば本殿の真上に開聞の御山の頂上が真直ぐに仰がれる、開聞の御山は薩摩国の南端の海表に屹立する休火山で、其の秀麗な山容は薩摩富士、或は筑紫富士の名があり、海拔九百二十四米、頂上には当社の奥宮御岳神社を祀つてある。

山上よりは北に遠く桜島、霧島等の山々を望み、南には近く大隅の連山、佐多岬等を始め、遠くには種子島、屋久島、硫黄島等を大洋の中に眺められる。種子島は鉄砲伝来で名高く、又硫黄島は僧俊寛の流滴で知られてゐる。

◆ 宝 物

宝物中、松梅蒔絵櫛筒(合は一名玉手箱)とも称せられ、昭和二年国宝に指定されたが、現在国指定の重要文化財である。その他、

義弘公寄進と伝えられる鍔を始め古鏡二十四面の神楽面、神舞装束、古文書類、桃山屏風絵等多数の宝物が宝物殿に陳列され一般の拝観を許可している。

◆ 祭礼其他

例祭は明治初年迄は旧暦九月九日に行われていたが、これを明治十年より太陽暦に改むることとなり、丁度その年の旧九月九日が十月十五日に相当したので、爾後毎年十月十五日に例祭を執行することとなった。又翌十六日には神幸祭が執行されこの両日は、南薩地方の名祭礼として参拝者が諸方より雲集し股賑を極むその他七月十八日の夏越祭(六月灯)旧二十三日祭、初穂献納祭等は、当社独特のお祭である。



玉手箱

◆ 神話、伝説、口碑等

イ、竜宮伝説 開聞岳は上古鴨着島と称し竜宮界であり、海神豊玉彦命の宮地であった。彦火々出見命は御兄火照命の釣を紛失し、お困りになったのを塩土翁の教によつて、海神の宮に赴かれ、その門前の井戸の辺で豊玉彦命の御女豊玉姫命に御逢いになり遂に御結婚を遊ばされた。

枚聞神社の北方約三百米位の玉の井の遺跡はその井戸であり日本最古の井戸と伝えられている。更に其の西方の岡には命等の御結婚をされた鞆入谷の遺跡がある。

ロ、天智天皇御巡幸伝説 開聞岳の麓の岩屋に仙人が行をしていたら或日二頭の鹿が現はれ法水を舐めたところ忽ち懐妊して一児を分娩した。之を瑞照姫、又は大宮姫と申す。天性の麗質世上に聞え、二歳にして上京藤原鎌足に育てられ、十三歳にして宮中に召され天智天皇の妃として御寵愛を受けること深かったが、他の女后等に嫉まれ遂に宮中を逃れ出でて伊勢の阿野津より船出し山川の牟瀬浜に上陸郷里へ帰つて来られた。

其の時大甕二個を持ち帰られたが、一個は途中で破損した。他の一個は現在尚神社の宝物館に保管されている。其の後天皇は姫を慕つて薩摩に御下向され、姫の許で余生を送られ御年七十九歳で崩御遊ばされたと伝記には記されている。

◆ 主なる祭典

| 歳旦祭 | 元始祭 | 七草祭 | 成人祭 | 節分祭 | 紀元祭 | 祈年祭 | 憲法記念祭 | 子供の日祭 | 新嘗祭 | 天長祭 | 大祓式 | 除夜祭 | 月次祭 | 旧二十三祭 | 御岳神社例祭 | 川上神社例祭 |
|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|---------|-------|--------|-------|---------|--------|--------|
| 一月一日 | 一月三日 | 一月七日 | 一月第二月曜日 | 二月三日 | 二月十一日 | 二月十七日 | 五月三日 | 五月五日 | 十月二十三日 | 十二月二十三日 | 七月三十日 | 十月十五日 | 毎月九日 | 毎月旧二十三日 | 旧三月四日 | 十一月十五日 |
| 大祓式 | 六月灯祭 | 敬老祭 | 前夜祭 | 例大祭 | 神幸祭 | 神嘗祭 | 文化の日祭 | 七五三子供祭 | 新嘗祭 | 天長祭 | 大祓式 | 除夜祭 | 月次祭 | 旧二十三祭 | 御岳神社例祭 | 川上神社例祭 |
| 六月三十日 | 七月十八日 | 九月十五日 | 十月十四日 | 十月十五日 | 十月十六日 | 十月十七日 | 十一月三日 | 十一月十五日 | 十月二十三日 | 十二月二十三日 | 七月三十日 | 十二月三十日 | 十一月九日 | 旧二十三祭 | 旧三月四日 | 十一月十五日 |